

2005 年度三重大学人文学部における

F D 活 動

報 告 書

2006 年（平成 18 年）3 月

三重大学人文学部

2005 年度 F D 活動の総括

人文学部の F D 活動も三年目を迎えた。今年度の F D 委員会の活動を概観・総括して今後の活動の礎とできればと考え、ここに小文を示す。

本年度本委員会が重点的に取り組んだのが、各種講師を招いて、F D 活動の根本を考え直そうという全体研修会であった。特に言葉だけが一人歩きしている感の強い「PBL」「e-learning」等の F D 活動に果たす役割を知るために、3 回の研修会を開催した点に大きな特徴がある。結果としてカリキュラム単位での月例研修会の開催は 2 回（6・12 月）に留まった。

7 月には高等教育創造研究センター副センター長・大学院医学系研究科教授の津田司先生と副学長（教育担当）の山田康彦先生を講師としてお招きし、PBL テュートリアルの講演会を実施した。津田先生の講演「PBL テュートリアルと成人教育学」では、従来の講義形式の問題点が指摘され、Pedagogy（子ども教育学）から Andragogy（成人教育学）への転換の必要性が強調された。そして、成人教育学に基づき、学生の能動性を引き出す授業形式の一つとして、PBL テュートリアル教育が紹介され、三重大学医学部での実践例が詳しく紹介された。山田先生の講演「PBL テュートリアル教育の全学的展開に向けて」では、PBL テュートリアル教育の、三重大学の教育全体の中での位置づけや、全学的展開のコンセプトが論じられ、「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力を育成するための基軸となる教育プログラムとしての位置づけが強調された（F D 活動(6 月次報告)より）。

ところが、質疑において目立ったのが、人文学部専門教育への PBL テュートリアル教育の適合性、従来の人文学部専門教育と PBL テュートリアル教育との違いなど、多様な人文学教育への導入についての否定的な意見であった。

そこで、10 月にはもう一度 PBL テュートリアル教育の人文学部への適用例として、F D 委員でもある中川正先生から、自らの実践例を基に報告いただいた。

「人文学部専門教育への PBL 導入の可能性」と題した講演では、PBL 教育の内容や方法に関する基本的事項が概説された後、医学部、共通教育、教育学部における PBL 教育の実例が紹介された。次に、人文学部における実践事例として、問題解決型言語学カリキュラム構想および法則探求型学習プログラムが紹介された。最後に、PBL 導入の可能性として、①既存の PBL 的授業の発展、②学問体系・カリキュラム責任単位ごとの可能性の探求、③PBL 的内容を意識した授業展開、④各専門授業の特徴を活かした位置づけ、⑤カリキュラム全体への PBL 的原則の導入が論じられた。質疑では、人文学部専門教育への PBL 導入の実質的・積極的利点について、活発な議論が交わされた（F D 活動(10 月次報告)より）。

さらにもう一つの重要な課題である「e-learning」についても 11 月研修会を全体研修会として、教育学部教授・総合情報処理センター・高等教育創造開発センターの奥村晴彦先生を講師としてお招きし、「三重大学での Moodle 導入」のタイトルで講演会を実施した。

まず、三重大学における e-learning システムのコンセプト、および、course management system (CMS) 導入のメリットについて概説がなされ、オープンソースの CMS として、Moodle の特徴および利点が説明された。次に、三重大学における Moodle の授業での活用例が数多く紹介され、Moodle の具体的な操作方法などについて説明がなされた (FD 活動(11 月次報告)より)。

極めて具体的な内容で、導入可能な関連分野では多くの反響があったものの、全体的にはまだまだ導入や意義そのものについて疑問視する声が多かった。

3 回にわたった全体研修は、時間の制約もあったが、必ずしも十分な理解を得られたとは言えない状況であった。特に 12 月に実施したカリキュラム責任単位での一年間の総括、反省内容では、全体研修会の実施そのものに強い不満が述べられた旨の報告があり、FD 委員会の本年度の活動全体を反省すべき結果となった。しかし、既に中期目標・計画にうたわれているにもかかわらず十分な理解の得られていない「PBL」や「e-learning」がこのような理解状況でしかない点は極めてゆゆしき問題を含んでいるように思われる。FD の中心的教育方法だとされる両手法が、この程度の理解で果たして今後も進めることができるのか大いに不安を抱かざるを得ない。但し、理解できないからと言ってただ従来の教育方法でよいのかどうかについては必ずしも具体的な提案がなされているわけでもなく、行き詰まり状態に陥っているように思われる。来年度以降の FD 活動に於いて早急に検討しなければならない課題であろう。

このような定例研修会とは別に今年度も夏季研修会を京都大学高等教育研究開発推進センター助教授の溝上慎一先生を講師としてお招きし、実施した。

最初に溝上先生の所属されているセンターの概要について説明があった後、大学教育改善の義務化・評価という方向性が定着するに至る現在までの大まかな流れと、各大学で実施されている様々な形式の FD 活動—FD 講演会・ワークショップ、学生による授業評価、公開授業&授業検討会など—についての紹介が行われた。それに引き続いて、FD をシステムとして捉える視点が提案された。これは共通の教授学習観をベースとしつつ、カリキュラム・教員・学生・組織が有機的に結びつきながら個々の授業を活性化させてゆくという考え方である。このシステムとしての FD という理念を具体化している実例として、カリキュラム改革と FD 活動の連動、もしくは小規模な自主研究ゼミを行っている大学が紹介された (FD 活動(夏季 FD 講演会報告)より)。

質疑では、授業評価の必要性・実施法・アンケートデータの運用法、及び FD 活動のあり方そのものなどについて、活発な意見交換がなされた。

夏季講演会では、従来の方向性とは異なり、FD 活動そのものを問い直す刺激的な講演であった。そもそも FD は誰を対象とするか、低レベルにおいた時の問題点が強く指摘された点に多くの理解者があったように思う。

以上のような全体研修を中心とした今年度の FD 活動であったが、先にも示した通り、

必ずしも構成員の理解を得られたとは考えられなかった。むしろ個別カリキュラム単位でより実践的に研修会をすべきとの社会科学科を中心とした意見は今後の研修方向を考える上で慎重に検討しなければならない課題であろう。

文化学科においてもFD研修会そのものに対する疑問や不評が多く出されており、果たしてこのまま研修会を継続することにどれだけの意味があるのか、大いに疑問を感じると共に、本年度の委員長として責任を感じる。

しかし、学生アンケートにもみるように、授業に対して抱く不満が必ずしも少ないわけではなく（もちろんどのレベルの学生に基準を合わせるのかという問題は残るが）、再度具体的な改善活動の構築が早急かつ不可欠ではないだろうか。次年度への最重要引き継ぎ事項であろう。

2005 年度 F D 委員会年間活動

はじめに

2005 年度の F D 委員会の活動は 4 月 7 日武笠前委員長より「次年度 F D 委員会への申し送り」を受け、① F D 研修会、② 夏季研修会、③ 授業参観、④ 学生アンケート調査、⑤ 教員へのアンケートの 5 項目に検討すべき課題があることを確認し、活動を開始した。年度当初に確認した委員構成や活動計画は以下の通りである。

I 委員会構成

委員長 山中 章○

学部長補佐 中川 正

委員 文化学科 久間泰賢 杉崎鉦司 永田素彦 野田 明○

社会科学科 洪 恵子 田中誠人○ 豊福裕二 深井英喜○

(○は新規委員)

II 中期計画による 2005 年度 F D 委員会年度計画

2005 年 4 月教授会にて報告された通り、本年度の F D 委員会の活動については、以下の活動の基本計画が示されている。この基本方針に従って具体的活動計画を策定することになる。

(1) 研究会

- ・ 年 6 回程度の F D 研究会、講演会等の活動を行い、教育カリキュラムや教育指導方法の改善を目指す。

(2) PBL チュートリアル教育

- ・ 海外先進教育研究実践支援プログラムの成果も生かして、「感じる力」「考える力」「生きる力」とその基盤となるコミュニケーション力を総合的に培う PBL チ

ュートリアル教育の実施を検討する。

(3) プレゼンテーション・ディスカッション型授業

- ・ 学生のコミュニケーション力の涵養のため、プレゼンテーション・ディスカッション型授業や e-learning を用いた授業など、学生参加型の授業方法の拡充を検討し、可能なところから講義科目への導入を図る。

(4) 少人数課題探求型授業

- ・ オリエンテーションセミナーや専門演習を通じて、考える力の涵養に効果的な指導方法について F D 研修などの場で議論を行い、可能なところから実行する。

(5) 実践的授業や自学自習問題解決型授業

- ・ 生きる力の涵養に効果的な指導方法について検討を続け、可能なところから実行する。

(6) 修士の学位の厳正な審査のあり方及び修士論文発表会の開催についての具体的な検討

(7) 文化学科の各地域研究総論や社会科学科の基礎総合などカリキュラム責任単位の教員が全員出動で担当する科目などについて、教育目標に則した新しい教育方法や教材の研究開発の検討を始める。

(8) 講義・演習に関する基本データ・資料を蓄積するための仕組みに基づき、教育内容やその教授方法の改善のための議論を支援するための資料を提供する。

(9) 先進的な F D を展開する事例を講演会などを通じて提示する。

(10) カリキュラムの責任単位(文化学科：4 地域・1 専修、社会科学科：法政関係学系・経済関係学系)で F D 研修を実施する。

(11) F D 活動報告書を作成する。

(12) 学生アンケート等の結果に基づき、教育効果及び教育組織の問題点について検証する。

Ⅲ 活動計画

2005 年度基本計画を具体化するため年 6 回の次のような活動を実施する（基本計画(1) 項目）。特に留意する点として、基本計画等に示された各種用語の概念規定を明確にし、学部構成員に浸透を計る。

(1) 前期定例研修会（6・7 月）

① 6 月定例研修会

- ・ 開催予定日 2005 年 6 月 8 日（水）14:00～15:00 定例教授会前
- ・ 会場 カリキュラム責任単位毎に指定（後日詳細掲示）
- ・ 内容
 - (a) カリキュラム責任単位別開催（基本計画(10) 項目）
 - (b) 昨年度実施学生アンケートの自己分析（基本計画(12) 項目）

(c) アンケート項目の追加、改正検討

② 7月定例研修会

- ・ 開催予定日 2005年7月13日(水) 14:00～15:00 定例教授会前
- ・ 会場 大会議室
- ・ 内容
 - (a) PBL チュートリアル教育研修会：担当理事・教員による説明（基本計画(2)・(4)項目）
 - (b) PBL チュートリアル教育質疑応答

(2) 夏季研修会（基本計画(9)項目）

- ・ 8月初旬（3～5日頃）開催：オープンキャンパス後
- ・ 外部講師の招聘による講演会

(3) 後期定例研修会（10～12月）

- ・ 6月定例研修会におけるアンケート自己分析結果の評価
- ・ 基本計画(3)・(4)・(5)項目に関する研修
- ・ 基本計画(7)項目に示された全員出勤型授業の分析・検討

(4) 授業参観

本年度は以下のような主旨で授業参観を実施する

① 趣旨・目的

- ・ 新任教員（赴任後3年以内も含む）の講義能力向上を目的として行う。
- ・ 学生アンケートとは関連づけを行わない（学生アンケートで学生からの評価が高かった講義を参観する、という趣旨ではない）
- ・ 前期のなるべく早い時期に実施することが望ましい

② 手続

- ・ 5月教授会で、FD委員長から、授業参観についてアナウンスする
- ・ その後、担当委員が全教員あてに電子メールで連絡
- ・ 6月末までに、希望する教員が担当委員へ申し込む
- ・ FD委員が希望を受けた教員に許諾を諮り、日程の調整を行う
- ・ 実施後、参加者（講義を受けたもの）・講義をした教員に対してアンケートを行う
- ・ これらの結果はFD委員会の報告書に掲載する

(5) 『活動報告書』の刊行（基本計画(11)項目）

- ・ 年度末に委員全員が編集

(6) F D委員会活動の人文学部ホームページへの掲載（基本計画(8)項目）

- ・ アンケート結果などの掲載

IV 活動細目

(1) 引き継ぎ会議 4月7日（木）武笠前委員長より「次年度F D 委員会への申し送り」を受け、①F D研修会、②夏季研修会、③授業参観、④学生アンケート調査、⑤教員へのアンケートなどの個別懸案事項について確認した。毎月第3水曜日の午後13：00～15：00に定例委員会開催を決定。

(2) 第1回委員会 4月20日（水）

- ① 2005年度委員構成の確認
- ② 今年度のF D活動の内容と方向性
- ③ 年間活動計画に関する教授会提出資料原案の作成
- ④ 各委員の役割分担
- ⑤ その他

(3) 第2回委員会 5月18日（水）

- ① 第1回研修会（6月8日）：研修会の具体的内容と担当について
- ② 第2回研修会（7月13日）：PBLチュートリアル説明会の式次第、講師他について
- ③ 夏季研修会（9月14日）：外部講師によるF D研修会開催について
- ④ ホームページへ掲載する資料について
- ⑤ 授業見学について
- ⑥ 全学教務委員会「学生による授業評価WG」委員の選出について（委員長）
- ⑦ その他

(4) 6月月例研修会 6月8日（水）カリキュラム責任単位毎に実施

- ① 研修内容
 - ・ 2004年度学生アンケート結果の自己分析
- ② 討議
 - ・ アンケート項目の検討
 - ・ 事前個別授業に対するアンケート結果の平均
- ③ その他

- ・ 7 月月例研修会について
- ・ 外部講師による特別研修会について

(5) 第 3 回委員会 6 月 15 日 (水)

- ① 7 月月例研修会について
- ② 夏季研修会について
- ③ 講師決定と講師との事前打ち合わせ報告
- ④ 10 月月例研修会の内容について
- ⑤ その他

(6) 7 月月例研修会 7 月 13 日 (水) 外部講師お二人の講演

- ① 津田司先生 (医学部教授)「PBL チュートリアルと成人教育学」
- ② 山田康彦先生 (副理事)「PBL チュートリアル教育の全学的展開に向けて」

(7) 第 4 回委員会 7 月 20 日 (水)

- ① 夏季研修講師の案内等について
- ② 夏季研修会の役割分担について
- ③ 10 月研修会の内容について
- ④ その他

(8) 夏季研修会 9 月 14 日 (水)

溝上慎一先生 (京都大学高等教育研究開発推進センター助教授)「システム要素としての F D を目指してー F D の最先端と課題ー」

(9) 第 5 回委員会 9 月 21 日 (水)

- ① 夏期研修会反省会
- ② 共通教育分野別での PBL 教育について
- ③ 全学学生アンケートWGについて
- ④ アンケート状況報告
- ⑤ その他

(10) 10 月月例研修会 10 月 12 日 (水) F D 委員からの追加報告

中川正先生「人文学部専門教育への PBL 導入の可能性」

(11) 第 6 回委員会 10 月 19 日 (水)

- ① 10月反省会について
- ② 11月計画について
- ③ 12月計画について
- ④ 大阪府立夕陽丘高等学校訪問報告
- ⑤ 出前授業アンケート
- ⑥ 全学学生評価WG報告
- ⑦ その他
 - ・ 10月31日WG会議代理出席について
 - ・ その他

(12) 11月月例研修会 11月9日(水) 外部講師による講演
奥村晴彦先生(教育学部教授)「三重大学での Moodle 導入」

(13) 第7回委員会 11月16日(水)

- ① 10月月例研修会の反省
- ② Moodleの可能性について
- ③ 12月月例研修会の内容について
- ④ 学生アンケートについて
- ⑤ その他

(14) 12月月例研修会 12月14日(水)

- ① 今年度FD研修会についての反省と今後について
- ② 全学アンケートについて
- ③ FD委員会活動を問う
- ④ その他

(15) 第8回委員会 12月21日(水)

- ① 12月反省会について
- ② 報告書について
- ③ 来年度について
- ④ その他

(16) 第9回委員会 1月18日(水)

- ① 学生アンケート実施について
- ② 教員アンケート実施について
- ③ その他

(17) 後期学生アンケート実施 1月23日～27日

(18) 第10回委員会 2月15日(水)

- ① FD活動報告書 分担の確認、入稿日(3月9日)、納品日(3月20日)
- ② 原稿校正について
- ③ 授業参観のあり方について
- ④ アンケート結果整理
- ⑤ 3月22日教授会報告確認
- ⑥ その他 次回会議(3月15日)確認

(19) 第11回委員会 3月15日(水)

- ① 報告書について
- ② 引き継ぎ会議の開催について
- ③ その他